

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)鴻池運輸株式会社愛西倉庫新築	階数	地上3階
建設地	愛知県愛西市西保町寄之内6-1他	構造	S造
用途地域	無指定	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年5月 予定	評価の実施日	2019年6月5日
敷地面積	17,708 m ²	作成者	山田 学
建築面積	7,191 m ²	確認日	2019年6月6日
延床面積	16,898 m ²	確認者	平島 誠人



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 75%, ③上記+②以外の 75%, ④上記+ 75%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4, Q1 室内環境: 3, Q3 室外環境(敷地内): 2, LR1 エネルギー: 3.8, LR2 資源・マテリアル: 3.3, LR3 敷地外環境: 3.5

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		建物全体・共用部		建物全体・共用部		全体	
		評価点	評価点	評価点	評価点	重み係数	重み係数	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

上位3種がB以上、Eは不使用

3 対応性・更新性				4.2	0.48			-	4.2
3.1 空間のゆとり		②	各階3.90m以上 壁長さ比率1階0.07 事務室、倉庫で5000N/m ² 以上	5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17			-			
3 電気配線の更新性		3.0	0.11			-			
4 通信配線の更新性		3.0	0.11			-			
5 設備機器の更新性		3.0	0.22			-			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー					0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.48	5.0	0.43				5.0
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水水栓に加え、節水型便器の採用	4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				-
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63				3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生クラッシュラン(路床)	3.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS下地の採用	4.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.0	0.22				4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			防水工事のプライマー	4.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68				-
1 消火剤					-				-
2 発泡剤(断熱材等)			断熱ボード、ロックウールの採用等、発泡材を用いた断熱材の採用無	5.0	0.50				-
3 冷媒				3.0	0.50				-
LR3 敷地外環境					0.30				3.5
1 地球温暖化への配慮		①	LCO2排出率=75%	3.9	0.33				3.9
2 地域環境への配慮				3.5	0.33				3.5
2.1 大気汚染防止			ガス設備設置無し	5.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-
1 騒音		独自		3.0	1.00				-
2 振動		独自			-				-
3 悪臭					-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-
1 風害の抑制				3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制				3.7	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリストの一部を満たす、配慮事項の過半を満たす	4.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

((仮称)鴻池運輸株式会社愛西倉庫新築工事(倉庫棟))

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 鴻池運輸株式会社

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス性能への配慮を行う。 ・敷地内外環境に配慮している。 ・エネルギー、資源、マテリアルの確保に努めている。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・給排水管は、耐用年数の長い部材を採用している。 ・階高、壁長さ比率等、空間のゆとりに配慮している。 ・十分な積載荷重を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地を設置している。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・LED照明の採用等、設備システムの高効率化に努めている。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・節水性能に配慮している。 ・リサイクル材の活用に努めている。 ・防水工事のプライマー採用等、化学物質の採用削減に努めている。 ・発泡材を用いた断熱材の採用無し等、フロンハロンの回避に努めている
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・LCCO2排出率を75%とし、地球温暖化の防止に努めている。 ・ガス設備設置無し等、大気汚染防止に努めている。 ・チェックリストの一部を満たす、配慮事項の過半を満たす等、光害の抑制に配慮している。
その他	